

告辞（入学式） （平成 29 年 4 月 4 日）

厳しかった冬が明け、当地、浜松では桜が満開となりました。このような時期に入学式を迎える慶びはまた格別です。平成 29 年度浜松医科大学入学式を挙げるにあたり、新入学生の皆さんに心からお祝いを申し上げますとともに、物心共に懸命に支援し、今日という日を一日千秋の思いで待ち望んでこられたご家族の皆様にも、心よりお祝い申し上げます。

平成 29 年度 4 月の新入学生は、医学部医学科 115 名、医学科 2 年次編入学生 5 名、看護学科 60 名、看護学科 3 年次編入学生 8 名であります。大学院医学系研究科博士課程 33 名、修士課程 16 名で、総計 237 名が本日、入学の日を迎えました。

はじめに、医学部医学科、看護学科の入学生の皆さんにお話しいたします。今、皆さんは、難関を見事に突破し、医師になれること、看護師になれることへの希望に満ち溢れていることでしょう。この感激は、生涯忘れ得ぬものとなります。良き医療人としてのスタートラインにつくことができたこ

とを心から喜んでください。そして、この晴れの日を迎えるにあたり、これまで自分を育ててくれたご両親やご親族、適切な助言と指導を行ってくれた方々に感謝しましょう。これからの人生において感謝すること、感謝されることを数限りなく経験するはずです。また、そのような良き医療人であって欲しいと思います。医療人としての出発の日ともいえる本日、「ありがとうございます」と言葉に出して感謝の気持ちを伝えてください。

さて、修学の在り方について述べさせていただきます。本学の修学は、高校までの勉強とは全く異なります。医師免許、看護師免許を取得するためだけに修学するわけではなく、文字通り、医学、看護学を修め、学位を授与されることです。もちろん資格が取れないことには医療人にはなれませんので、資格の取得は大切です。幸い本学の国家試験の成績は極めて良好であり、カリキュラムに従ってしっかり修学すれば合格できます。

では、学位を取るとはどういうことでしょうか。皆さんは、6年、または4年後に卒業し、医学士、看護学士の学位が授

与されることとなりますが、そのために修得すべきことがディプロマポリシーに書いてあります。医学科、看護学科いずれも先般改訂し、明確で、わかりやすくなっています。皆さんは、新たなディプロマポリシーに基づいて修学をする最初の学生です。ぜひ一度、じっくり読んでみてください。

まず、自律的学修能力を身に付けてもらいます。近年、医学研究とそれに基づく診療の進歩は目覚ましく、その知識・技術等の情報量は膨大であり、カリキュラムの中で、全てを習得することは不可能です。加えて、社会の変化とともに医療人として習得すべき領域は広がる一方で、しかも各分野が高度化し、専門化しています。この現状に対応するには、常に学び続けるしかありません。受験勉強とは全く異なった、医学、看護学という学問を修学し、常に最新のものにしてゆくという生涯を通じた知識と技術の習得が必要です。

そして、問題解決能力を涵養します。大学では、ただ与えられたものを学習するだけではなく、未知の課題を抽出し、自ら解決しながら学習するという、問題解決能力の習得が必要です。医療の現場では、常に新たな問題・課題が生じます。

そのような事態に対応し、解決策を考え、最善の医療を実践することが求められます。さらにこの過程を振り返り、よりよいものに改善することを繰り返すことにより、習慣化され、効率的となり、さらに知識・技術が磨かれる好循環が生まれます。習慣化することがとても大切です。

さらに医療人として、倫理観と科学的探究心を持つことが必要です。本邦では高校から医科大学に直接進学し、わずか数年で一般教育から専門教育まで修学することになります。そのため、リベラルアーツと言われる一般教養に割り当てられる時間は極めて限られています。リベラルアーツとは、「人間性を豊かにはぐくむ幅広い知識や物事を深く専門的に追求する上で土台となる基礎的学問」です。なぜリベラルというのか、それは他から強制されることなく自らの意志で自由に人生を生き抜くために必要な教養、学問、知識、技術、であるからです。専門教育はこの上に立って本来行われるべきものです。人間としての教養を持ち、自らの価値観、人生観を有し、異なる文化、宗教、人種に寛容であることが求められます。

専門課程に入っても、医学・看護学以外の広い分野の教養や見識を深めてください。このような不断の努力や謙虚に学ぶという姿勢によって、豊かな人間性、医療人としての倫理観や健全な常識力、さらにコミュニケーション能力が磨かれます。命の尊厳を大切にし、病人を思いやる心を持ち、謙虚な態度で真摯に医療に従事することで、患者さんの意志や、職種を超えた同僚の意見を尊重する基本的な医療人の資質が身に付くのです。そして、大学生となった皆さんは、貢献するということを真剣に考えてください。大学に貢献する、地域に貢献する、日本の社会に貢献する、そして国際社会に貢献する。医療人としての使命と言えます。

次に、大学院博士課程並びに修士課程に入学された方に申し上げます。大学院での研究成果は本学の大きな財産となります。独創的で世界に発信できる研究成果を期待しています。大学院で勉強し、研究することは幸せな時間であると思います。自らが、興味と疑問を持ったテーマに挑んでください。失敗が繰り返されることと思いますが、その失敗こそが皆さんを大きく成長させます。実験結果を客観的に受け止め、論

理的思考に基づいて、何度でもチャレンジしてください。物事を科学的、客観的に見る習慣、リサーチマインドが涵養され、医療人、医学研究者としてのその後の人生において、かけがえのない財産となります。

古代ギリシャで活躍した、医学の祖、ヒポクラテスは、現代医療倫理の根幹をなす「ヒポクラテスの誓い」で有名ですが、その最初の誓いに「私は能力と判断の限り患者に利益すると思ふ養生法をとり、悪くて有害と知る方法を決してとらない。」と記しています。まさに医師としての倫理の根幹であり、2000年以上経過した今日においても、いやむしろ今日こそ胸に刻むべき言葉だと思えます。また、19世紀に活動したフローレンス ナイチンゲールの誓詞の最後には、「わが手に託されたる人々の幸の為に身を捧げん」と記されています。ナイチンゲールと言えば、献身的な看護で有名ですが、当時の劣悪な衛生状態の改善に努め、傷病者の死亡率を著しく減少させたことは、偉大な業績です。現代医療では看護師は医師と同じくチーム医療の重要な専門家という考え方で診療にあたります。自らを律する習慣と責任感を身に

付けましょう。

医学・医療の世界に対して、社会の多くの人々が多大な期待を寄せています。今日という日は、皆さんの人生において大きな喜びの日であるとともに、厳しくも生きがいのある人生の第一歩を踏み出した日でもあります。真摯な気持ちを持ち、謙虚に勉学に励み、本学建学の理念の最後に謳われている、「人類の健康と福祉に貢献する」ことができる医療人に成長することを期待して、告辞と致します。

平成29年4月4日

浜松医科大学長 今野弘之